

(Japanese Academy of Learning Disabilities)



日本LD学会会報

第52号

事務局：栃木県カウンセリングセンター内

〒320-0851 宇都宮市鶴田町687-9 ムギショウビル2F TEL. 028-649-0090 FAX. 649-1213

URL. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jald/>

ある日の巡回相談で

福岡教育大学

中山 健

小学校の巡回相談でよく目にするのは教室内に掲示されている子ども達のめあてである。顔写真とともにその学期のめあてが一人ひとりの手で思い思いに書かれている。学習のめあてと生活のめあてを分けて書いてある学級もある。学習のめあてには、算数を頑張るとか、漢字をたくさん覚える等がある。生活のめあてには、きまりを守るとか、友達と仲良くする、外で遊ぶ等がある。

これらは教室で見かける何気ない風景である。私は気になる子どもとしてあげられている、あるいは実態把握を終えて判断が求められている子どものめあてを見てどんなことが書いてあるか確かめたり、学習のノートを見たり、授業中の様子を観察したりする。

放課後、担任の先生とお話する。指導方法の工夫として、時には他の子と異なる学習プリントの工夫をお願いしたり、学習の負担を軽くするような配慮をお願いしたりする。しかし、多くの場合あまり感触の良い返事は返ってこない。その子だけ違うプリントを使うのは・・・とか、その子だけ特別に配慮するのは・・・ということが多い。担

任の先生の考えは、学級の子も達は皆同じでないといけない、その子だけと言うことはできない、ということのようだ。

こちらの助言の意図や内容が伝わらず溝が深いまま帰ることもある。そんな帰り道、ある時ふと気づいた。教室に掲示してあるめあては一人ひとり違うのに、何故みんな同じでないといけないのだろう。そして想像してみた、子ども達全員が同じめあてを書いたものが教室に掲示してある風景を。みんなが同じめあてなんて、見る人のほとんどが気持ち悪い思いをするに違いない。

一方では、一人ひとりが異なることを求め、他方では暗に同じであることを求めている教室というものは発達障害のある子どもにとって、いやどんな子どもにとっても分かりにくいものになっているのかも知れない。

“一人ひとりのめあてが違うのだから、学習の進め方や教材が異なっても当たり前” そんな風に考えることができればもっと分かりやすくなるのではないかと思う。